

岩手大学農学部共生環境課程 教員公募

1. 職種・人員：准教授・1名
2. 所属：農学部共生環境課程
3. 教育研究分野：農林分野に教育研究および社会活動の足場を持ち、次の4にあげる担当科目の教育が可能な方（とくに(1)～(4)の科目は主担当となります）。
4. 担当科目：（授業の概要等は岩手大学のHP(http://ia.iwate-u.ac.jp/i_index.htm)のシラバスをご覧ください）
 - (1) 自然環境政策論
 - (2) 環境共生社会論
 - (3) 地域観光学（観光全般、野外レクリエーション、グリーンツーリズムのいずれかを講義できること）。
 - (4) 農林環境政策特論（大学院修士課程）
 - (5) その他課程共通の講義・演習（共生環境入門、基礎キャリア形成ゼミ、実践キャリア形成ゼミ、地域マネジメント論、農山村調査実習など）の一部（分担）。
 - (6) なお、この他にも全学共通教育科目や学部専門基礎科目を担当していただきます。
5. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する方。
 - (2) 准教授としての十分な研究業績をもち、学部および大学院(修士課程)の教育・研究指導に熱意がある健康な方。
 - (3) 農山村地域のフィールドワークを主体とした調査研究の実績がある方。
 - (4) 海外調査の経験がある方が望ましい。
6. 任用予定日：平成23年4月1日
7. 選考方法：書類審査、および必要に応じて面接を行う場合があります。

（注）面接を行う場合は、平成22年11月に岩手大学で行います。

なお、岩手大学は男女共同参画を推進しています(<http://www.iwate-u.ac.jp/gender/>)。男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、教育、研究、地域貢献等の業績および人物の評価において、同等と認められる場合には女性を優先します。
8. 提出書類
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績目録(下記分類ごとに記載)
 - a) 学位論文, b) 著書, c) 学術論文(査読付き論文), d) 総説, e) その他の論文
 - f) 学会発表(最近5カ年)
 - (3) 主要な論文等5編程度の別刷(コピーも可)
 - (4) 現在までの研究概要と今後の教育・研究への抱負(各3,000字程度)
 - (5) 応募者について意見をうかがえる方2名の連絡先
9. 公募締切日：平成22年10月29日(金)
10. 応募書類提出先および問い合わせ先
〒020-8550 盛岡市上田3-18-8 岩手大学農学部共生環境課程
教授 広田純一（電話：019-621-6199, Fax：019-621-6207, Email:hirotaj@iwate-u.ac.jp）
（問い合わせはEメールでお願いします。応募書類は返却いたしません。）

なお、農学部共生環境課程の教育・研究内容については、当課程のホームページ
<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~ess/>
をご参照下さい。

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A.著書・訳書、B.学位論文、C.総説・論説、D.原著論文 (a)学術雑誌*¹、(b)紀要*²、(c)プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H.国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り返してください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等を記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 （著書・学術論文等）

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎（単著）（1990）
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎（分担執筆）（1991）
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」（大学太郎, 学部一郎編）, △△堂, 盛岡, pp.10-20.
3. 岩手一郎（分担翻訳）（1992）
トウモロコシ, 「アメリカの農業」（A.B.Carter 著, 大学太郎監訳）, ◇◇社, 東京, pp.20-30.
4. Iwate, I. and Morioka, J.（分担執筆）（1993）
Agriculture in Japan, “Agricultural Sciences”(Eds.: D. E. F. Green and H.I.James), Bio Press,London, pp.20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎（1980）
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士（◇◇学） ○○大学]
2. 岩手一郎（1983）
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士（◇◇学） ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎（1994）
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎（1995）

岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)
北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp.35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)
イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告(△△県), pp.10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)
イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表(最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)
Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表(最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)
岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.